

(1)

2017年7月1日

The Kyodan Times

(1933年12月28日 第三種)  
郵便物認可 隔週土曜日発行

第4864号

# 教団新報

定価 1部144円(本体133円+税20円)  
予約購読料 1年分 5,150円  
紙代のみ 3,600円  
振替 00140-9-145275  
本紙を購読ご希望の方は、前金を  
そえて、お近くのキリスト教書店  
へお申し込み下さい。  
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団  
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546  
FAX03(3207)3918  
URL http://uccj.org

発行人 道渡家紀一  
編集主筆 道渡義彦  
印刷所 株式会社かんし



議案ごとに2度の採決を繰り返した

## 教区総会告 2017年度

3

5月末集中して総会開催

沖縄教区 沖縄教区  
教区総会は、5月28日から2日間、沖縄キリスト教セントラルで、開会時、正議員43名中、34名が出席して、開会された。

平良修議長は、中間報告と題した議長報告で、「他県出身牧師が、担任教師の過半数を占める沖縄教区の現実で、昨年、沖縄出身の新三役が誕生した意味や意志は、何なのか。ここに沖縄教区の存在に関わる問題がある。伝道所信徒議員に議決権を与える教区規則改正是、教団議長の同意を得られず、1議案毎に2度採決するとの内規を設けたが、今総会から、伝道所信徒議員席を従来の准議員席でなく正議員席に設けた。教団との間に

議案ごとに2度の採決を繰り返した

沖縄教区 第77回沖縄教区方針は、教区内の分裂すら招いたので、本年3月、教区方針についての第1回学習協議会を開催した。近年の沖縄の集会では珍しい130人の出席が、近年の沖縄教区で続

がった」と報告した。

教務報告で、那覇相愛伝道所が総会直前、5月12日開設されたことを報

がった」と報告した。

予算比1223万円減の1500万円で、前年度

17年度経常会計予算是

から4000万円の取り崩し議案が、承認された。

平良議長は、議長中間報告で「適当な年月をか

けて、負担金未納金を納付して貢う方法も、一つの現実的解決法ではないかと考えている」と報告した。

1日目夕食後、会場を2階の志真志伝道所に移して、第2回学習協議会が開催された。発題者は

33回総会が、討議の末の否決なら、むしろ良かった。廢案は沖縄の教会への死の宣告だった」と

述べられた。この総会においては採決をしな

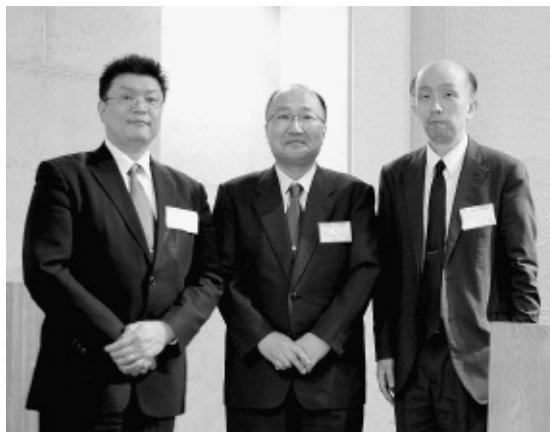
い」との動議が出された

が少数否決となり、原案を161名中130名の

賛成で可決した。

常置委員選挙は、例年全数連記(5名)による

投票が行われているが、



左から、岩田副議長、願念議長、七條書記

議事日程が承認された後、按手式に関する件・准允に関する件が上程され、議場の承認後、早速按手・准允が執行された。一番初めの議事で教師を立てることを行い、教師誕生の喜びを分かち合うところから本格的な議事が始められた。

議長報告において真壁議長は、2016年度の重点課題として、「教区による立川開拓伝道のさらなる歩み」、「教区青年」を告白し、一同が聖餐に与り、信仰の一一致を確認した。

開会礼拝において一同で日本基督教団信仰告白を告白し、一同が聖餐に与り、信仰の一一致を確認した。

活動の充実、「他教区との交流」、「東日本大震災被災教区への継続的支援」という4つの課題を挙げ、それぞれについて期総会が開催された。開会時の議員数は、204名中161名であった。

開会礼拝において一同で日本基督教団信仰告白を告白し、一同が聖餐に与り、信仰の一一致を確認した。

これら議長報告に対する質疑として、「立川からしだね伝道所の取り組みが、伝道する教団のモルとなることを願うといふ文言があるが、その点についてもう少し丁寧に説明して欲しい」との問い合わせがあり、議長は、「モデル」というのは、西東京教区が教団のモデルとなるということを念頭においていることを感じた。

諸報告の中では、特に大きな報告として、立川からしだね伝道所について、2014年4月以来祈り願っていた、土地と建物の取得(費用470万円、契約完了)という報告がなされた。

## 立川伝道、土地・建物の取得を報告



西東京

## 常置委教職・信徒定数割合の変更決議



東中国



東中国

教団問安使との質疑では、「第40回教団総会における九州教区提案議案の取り扱いについて、教団議長に対し何らかの処分を課すということはないのか」という声に対し、

「洗丸から聖餐へといふ形で対応した」と答え、「聖餐に関する議論を」と応じた。その他議場から「新たに設置された伝道センター構想との関係について特化した委員会の

否定するような、一方的な決め付けは納得できない教活動計画に関する件」を課すということはない」と「立川開拓伝道の推進について特化した委員会の

【議長】願念寺(国分寺)、三役選挙結果

【教職】山畑謙(小金井)、緑町、内田汎(大宮前)、菅原力(新生)、【信徒】内堀怜子(相愛)、中川義幸(阿佐ヶ谷)、(小林信人報)

【副議長】岩田昌路(狹江)、【書記】七條真明(高井戸)、常置委員選挙結果(半数改選)

【副議長】岩田昌路(狹江)、【書記】七條真明(高井戸)、常置委員選挙結果(半数



第 4864 号

(第三種郵便物認可)

# 改正組織的犯罪処罰法の可決に抗議し 同法の廃止を求める声明

「剣を打ち直して鋤とし 槍を打ち直して鎌とする。」  
(旧約聖書イザヤ書2章4節)  
本日、参院本会議において、多数の反対意見が表明されていました中、十分な審議の時間を持たずに、組織的犯罪処罰法改正案を可決したことに対し、強く抗議します。

同法において新設される「テロ等準備罪」の実質的な内容は、過去三度廃案となった「共謀罪」そのものです。そもそも同法は憲法第31条に謳われている罪刑法定主義に反しています。また、その内容においては、処罰の対象者が極めてあいまいで、一般人が処罰の対象となる可能性を排除することはできません。

さらに、この改正により、いわゆる「監視社会」体制作りが進められることが懸念されるほか、個人の内心の自由の侵害が現実のものとなること、また、市民の自主的で自由な活動が委縮してしまうことが予想されます。

日本基督教団は第二次世界大戦中に治安維持法違反とされる過酷な宗教弾圧を経験しました。旧ホーリネス系教会の牧師130名ほどが検挙されたほか、それらの教会が解散させられるという苦難の出来事を忘ることはできません。

日本基督教団は戦争遂行に協力をしてしまった過去の罪を主

なる神の前に悔い改めつつ、日本が、「剣を打ち直して鋤とし、槍を打ち直して鎌とする」との聖書の教えに学び、世界の国々相互の信頼関係を構築し、積極的に平和を実現していくための不斷の努力と取り組みを続けることを強く願います。

日本基督教団創立記念の日（1941年6月24日）、および、旧ホーリネス系教会弾圧の出来事を覚える日（1942年6月26日）

を前に、改正組織的犯罪処罰法の可決に抗議し、同法の廃止を強く求めます。

日本基督教団 総会議長 石橋秀雄



左から、森田書記、吉澤委員、堀委員長  
北村、小友、各委員

会期「障がい」を考える  
小委員会を教団会議室にて開催した。本期委員の  
小友睦（三戸）、北村智中（東京府中）、堀真知子  
(瀬戸キリスト)、森田恭一郎(河内長野)、吉澤永  
(愛知)が出席し、委員

長に堀委員、書記に森委員、ホームページ担当に吉澤委員を選任した。委員会の位置づけについて、教団総会期毎に決議の上、宣教委員会の下に活動が継続されることを確認した。

いこと。そのため今期も現地訪問を行う。②2年に一度の牧会者全国交流会を2018年度に開催する。そのための献金を継続する。③「障がい」に関する情報発信を継続する。そのためには、

「牧会者・家族相談室」開設準備に努める

## との宣教協力委員会

A black and white group photograph of fifteen individuals, mostly men in suits and ties, and women in professional attire, seated around a long table in what appears to be a formal meeting room or conference hall. They are all looking towards the camera with serious expressions.

その後毎年8月は両教団の議長・総会長名で発表している「平和メッセージ」を作成した。また、これまで20回開催している歴史共同研究委員会を今後も継続すること、および、「宣教協力にあたっての指針」の改訂作業を進めることを確認した。

④牧会者ならびにその家族の精神的ケアについての取り組みを継続する。  
次に、第6回「障がい」を考える全国交流会の計画について協議した。2018年10月1日～2日、戸山サンライズにて開催する。内容は「牧会者ならびにその家族の精神的ケアを考える」。杉本園子氏（高知教員会員、臨

床心理士)を講師とすることとした。参加者について、従来の「牧会者とその家族に限定する」よりも範囲を広げ、役員や信徒の参加を願うこととした。プログラムは学びだけでなく、交流の場でもあることを念頭においている。

続いて、「牧会者との家族のための相談室」設置準備委員会の経緯を確認した。相談室開設を

6月15～21日、同志社  
びわこリトリートセンター  
（滋賀県大津市）にて、  
第50回在日大韓基督教会  
と日本基督教団との宣教  
協力委員会が「兩教会の  
宣教課題と宣教協力」宗  
教改革500周年に学ぶ  
」のテーマで開催され

1日目は、石橋秀雄議長の説教「伝道力の命と力の回復」(マタイ28・16～20)による開会礼拝の後、前回記録確認、両教会の紹介および課題の報告がなされた。

今年度も各教区総会を問安し、教区内における伝道および教会・伝道所、関係学校・施設・団体等の働きの一端を知らされ、とても励まされた。教区総会において耳にした言葉の中から、心に残つたものを紹介したい。

「隣の教会と言つても距離では100キロを越えている。そこを牧師や信徒が出かけて行っている」(北海教区総会にて)。あらためて北海教区の広さを思わされ、日常的にそのような距離を移動して宣教協力されていることにとても励まされた。

「教会では70代が中核です」  
(西中國教区総会にて)。とかく  
高齢化のことが言われるが(こ  
の頃は老人クラブでも高齢化が  
進んでいた)、教会ではたしかに  
心に残った言葉  
あれこれ

70歳代が教会を支え、働きの中  
心となつていると共感した。

「獻げる喜び・つながる恵み」  
関係の豊かさを生きる『合同』  
教会」(兵庫教区総会の主題)。

小規模であつても各地域に教会

・伝道所が存在する」とい  
教団の豊かさであることとい  
り「存在の豊かさ」とい  
をいろいろな機会に話さ  
る。しかし、それだけでは  
各教会・伝道所相互の関わ  
りをして行くこと、つまり  
「関係の豊かさ」を作り出  
とが、これから教団の生き  
き方向性と強く思はされた  
最後に、ともうれしさを  
言葉。「書記談話を楽しめ  
でいます」(複数の方より  
うもありがとうございまよ

(教団総会書記 雲然)

## 心に残った言葉

70歳代が教会を支え、働きの中  
心となつていると共感した。  
「獻げる喜び・つながる恵み～  
関係の豊かさを生きる『合同』  
教会～」(兵庫教区総会の主題)。  
小規模であつても各地域に教会

き方向性と強く思われた。  
最後に、とてもうれしかった  
言葉。「書記談話を楽しみに読  
んでいます」（複数の方より）。だ  
うもありますがどうぞ。